

中華人民共和国国歌の作曲者聶耳（ニエアル）と湘南

聶耳（ニエアル）の紹介

中華人民共和国の国歌「義勇軍行進曲」の作曲者である聶耳は、1912年（明治45年）2月15日、中国西南の雲南省昆明市で生まれました。4才のときに漢方医だった父親を肺結核で亡くし、一家は厳しい生活を送っていましたが、昆明県立師範附属小学校に入学、勉学に励み、成績はいつも優秀でした。この頃から笛を、さらに胡弓、月琴などの民族楽器の演奏を学び音楽の才能を発揮していました。



その後、貧しい生活の中、雲南第一連合中学を卒業し、親戚や友人の援助を受け、昆明省立第一師範学校に入学、高級部英語学科で学びました。またピアノ、バイオリンなどの演奏知識を学び、その間、マルクス主義の書物に親しみ、学生運動にも進んで参加していました。

1930年に上海に渡り、貧しい生活を送りながらもバイオリンの独学を休まず続け、翌年、「明月歌舞団」のバイオリニストに採用され、職業音楽家として作曲の理論や和声学を学びました。このころから作曲を手掛けるようになりました。

「義勇軍行進曲」を作曲した年の1935年（昭和10年）、日本を訪れていた聶耳は7月17日の午後、友人と遊泳中の鵠沼海岸で帰らぬ人となりました。

「義勇軍行進曲」は1949年（昭和24年）中華人民共和国成立時に暫定国歌に選ばれ、その後1978年に正式に国歌となりました。このときの歌詞は、文化大革命中に作詞者の田漢が批判・迫害をされたこともあって毛沢東や中国共産党を讃える内容に変更されていました。1979年に田漢の名誉回復がなされ、1982年に元の歌詞に戻りました。

聶耳記念碑の建設

「義勇軍行進曲」が中華人民共和国の暫定国歌となった1949年（昭和24年）に藤沢市民有志により聶耳を記念する運動が起こり、1954年（昭和29年）に記念碑が建てられました。同年11月1日に中国の紅十字（赤十字）会長、李徳全女史を迎え、盛大に除幕式が行われました。しかし1958年（昭和33年）の狩野川台風による高波により記念碑が流失してしまいました。その後1965年（昭和40年）に記念碑保存会により、記念碑の再建運動が始まり、同年9月に再建されました。多数の藤沢市民と関係者が列席し、盛大な除幕式が行われました。これまで要人を含め多数の中国人が記念碑を訪れ



ています。

藤沢市と昆明市

中国国歌「義勇軍行進曲」の作曲者である聶耳の誕生の地と逝去の地という縁で藤沢市と雲南省昆明市は、1981年（昭和56年）に友好都市になりました。以来40年近く各分野での交流が行われています。



碑前祭

聶耳の命日にあたる7月17日に聶耳記念碑保存会主催による碑前祭が毎年行われています。藤沢市消防隊による「義勇軍行進曲」の吹奏のもと、黙祷を捧げ、来場者が献花を行います。

中国国歌歌詞

起て！ 奴隷となることを望まぬ人びとよ！
我らが血肉で築こう新たな長城を！
中華民族に最大の危機せまる
一人ひとりが最後の雄叫びをあげる時だ
起て！ 起て！ 起て！
もろびと心を一つに
敵の砲火をついて進め！
敵の砲火をついて進め！
進め！ 進め！ 進め！
（在日本中国大使館ホームページより）

記念碑とレリーフ

記念碑の碑石の表面に耳の字をモチーフにした図柄が描かれています。これを設計したのは近代日本の設計運動を先導した山口文象（1902 - 1978）です。1986年、没後50周年を記念して彫刻家・菅沼五郎（1905-1999）によるブロンズ製レリーフと高さ267.5cmの碑板が新たに建てられました。右下、方形銅板に聶耳の自署が彫られています。



その他の碑文など

広場には記念碑のほか以下の碑文、詩碑、揮毫があります。

秋田雨雀碑文

「こゝは中華人民共和国の作曲家聶耳の終焉の地である」で始まる「聶耳を記念する」と題する碑文は著名な劇作家・秋田雨雀により最初の碑が建設された時に書かれたものです。小さくて目立たないのが残念です。書は著名な書家・豊道春海によるものです。



「聶耳を記念する

ここは中華人民共和国の作曲家聶耳の終焉の地である
彼は一九三五年七月十七日暑をこの地に避け水泳中突然波間に姿を消して不帰の客となった 聶耳は一九一二年中国雲南に生まれ欧陽予備先生に師事し二十数年の短い生涯の間に中国民衆の労働を歌った大路歌碼頭工人歌等の大作を残した 現在中華人民共和国国歌となっている義勇軍行進曲も聶耳の作曲になるものである 耳を傾ければわれわれは今日なを聶耳のアジア解放の聲を聴くことができるであろう
ここは聶耳の終焉の地である」

一九五四年十月
秋田雨雀撰
豊道春海書

郭沫若揮毫

1965年の記念碑再建時に寄せられた中国の著名な文学者・郭沫若による「聶耳終焉之地」揮毫です。



聶耳記念碑の由来

葉山峻・元藤沢市長 / 聶耳記念碑保存会会長により書かれたもの。

「1935年7月17日、この地に来遊され、この海に不帰の客となった聶耳（ニエ・アル）氏の、その夢みるような在りし日の姿が、ここに甦えりました。聶耳氏は1912年春、中国雲南省昆明湖畔に呱呱の声をあげました静澄、雄大な自然に抱かれて成長した氏はやがて、その豊かな天賦の才を花ひらかせ、中国国歌「義勇軍行進曲」の作曲をはじめ現代中国音楽の先駆者として大きな足跡を遺しました。氏が故国を離れて、日本を訪れたのは、若いころを抱いての旅でしたが、その旅情を慰め魅了したのがここ藤沢の地であり鵜沼の渚でし



た。わたくしたちは、そのゆかりをしみじみ思い、そのえにしを深く感じ 1954 年この地に記念碑を建設し保存会を発足させましたがさらに、氏の没後 50 周年を記念し思いも新たにこの胸像を建立しました。永遠に時を刻みつづける波のひびきの中、平和を奏でる在りし日の聶耳氏の像は、いつまでもここに微笑を湛え、日中友好の礎となることを確信します。」

1986 年 3 月

聶耳記念碑保存会会長

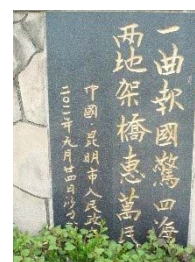
藤沢市長 葉山峻

中国語による説明石碑

聶耳記念広場には中国語による案内標記がありませんでしたので、聶耳にゆかりの深い雲南省から石を取り寄せ、「聶耳生平」（聶耳の略歴）と「聶耳生平と聶耳記念会碑保存会の活動」（聶耳の生涯と聶耳記念碑保存会の活動）を中国語で彫刻した石碑が 2010 年（平成 22 年）に建造設置されました。

昆明市から寄贈された詩碑

「一曲報國驚四海兩地架橋惠萬民」2011 年（平成 23 年）昆明市より友好都市提携 30 周年を記念して寄贈されました。「ひとつの曲が世界に響き渡り、両国に橋を架け人びとに恵みをもたらす」という意味です。



聶耳記念広場の清掃について

毎月第一月曜日の 11 時から 11 時半まで、「ニエアル記念公園愛護会」と湘南地域の海岸保全活動を行う「認定 NPO 法人ゆい」のメンバーによる公園の清掃作業が行われております。参加ご希望の方は軍手のみご持参でお出掛け下さい。（本事業は藤沢市から支援を受けて実施しています）

聶耳（ニエアル）について本の紹介

『歌で革命に挑んだ男 中国国歌作曲者・聶耳（ニエアル）と日本』岡崎雄児著（株）新評論・定価 2800 円+税）があります。2015 年 7 月没後 80 周年を記念して膨大な資料と現地取材に基づいて書かれた本格的評伝です。刊行時に「朝日新聞」「毎日新聞」「東京新聞」「神奈川新聞」など各紙で紹介されました。